

# みんぱくリポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology Academic Information Repository

## ことば遊び

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2009-04-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 江口, 一久 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15021/00001828">https://doi.org/10.15021/00001828</a>



ことば遊び

## 三人のなにがあつてもすいてくれる人と九つの女の恥の心

さて、この世でなにがあつてもすいてくれる人がいる。三人はなにがあつてもすいてくれる。

さて、（あとでいうが）三人の人たちはお金でかわなければならぬ。（いまからいう）三人の人たちはお金でかつても、かわなくとも、おまえさんをはなさない。母親はなにがあつても、おまえさんをすいている。娘はなにがあつても、おまえさんをすいている。おまえさんの姉妹はなにがあつても、おまえさんをすいている。この三人にはなんの下心もない愛がある。三人はお金でかわなければならぬ。おまえさんの父親とおまえさんの息子とおまえさんの兄弟だ。おまえさんが、この三人の役にたたないと、三人はおまえさんをすいてくれない。この人たちの愛情はお金でかわなければならぬ。

さて、しかしながら、父方のおじはおまえさんの役にはたたないし、おまえさんをまつたくすいてくれない。おじの子も、おまえさんをすいてはくれない。腹違いも兄弟も、おまえさんをすいてはくれない。

男といふものは、主がつくられ、この世にやつてきた日から、九つの恥の心をもつてきた。男はその恥の心をもつたまま死ぬ。

男の子は一つの恥の心をもつてくる。男は一つの恥の心をもつて死ぬ。女も娘も、アツラーにつくられ、九つの恥の心をもつてこの世にやつてくる。気をつけないと、女は死ぬとき、たつた一つの恥の心すらのこさない。それはどういうことだろう。女が年頃の娘のとき、わかるとおもうが、九つの恥の心がある。結婚して、男のところに嫁入りする日、水浴びをすると、三つの恥の心がおちてしまう。女には六つの恥の心がのこる。三つの恥の心は、女がはらんでも、子どもをうんだ日に、おちてしまう。のこるは三つの恥の心。

女が浮氣をする日、すなわち、よその男とねる日、結婚していない男とねる日、三つの恥の心はおちてしまう。これで、九つの恥の心はおしまいになる。

男はなにがおこつても、恥ずかしいといい、にげていかない。男はなにがおこつても、恥ずかしいといい、人にものをやらないということはない。男はころされかけても、なかないという。わかるな。男は一つの恥の心はのこす。

でも、女の九つの恥の心は、ときとともに、みんななくなってしまう。

（なにがなくても、愛するといふのは、財産とかかわりなく愛すこと）。お金や財産目当てに愛してないことをいう。母親、姉妹、娘は財産の介在なくして、子どもや、兄弟、父親を愛す。男と女について、恥の心がちがうといふのは、男性中心社会における、

男性の身勝手な言い分ともいえる。女性のなかにも、「男の心をもつ人」といわれる人がいる。この人は男性同様、恥の心をしつかりともらっている人だとおもわれている。)

(一九八三年一月一九日、語り手 ハンマドウ・ハマ・ガーブド、ガウンデレにて)

## 287 三つの理由で三つのことをおそれよ

三つの理由で三つのことをおそれよ。三つのことをおそれるな。

でも、三つのことをおそれよ。三つの理由で三つのことをおそれるな。多言をおそれるな。真実をかたる人をおそれよ。力をもつている人をおそれるな。きめたことをする人をおそれよ。弓の上手な人をおそれるな。矢毒をつくるのが上手な人をおそれよ。というのは、弓さばきが上手でも、矢毒がきいていないと、相手をころせないからだ。村長をおそれよ。村長と王さまがいつしょにいるといけないからだ。ちいさな川をおそれよ。というのは、ちいさな川も、おまえさんをおおきな川にひっぱっていくからだ。学生をおそれなさい。というのは、その先生のためだ。

三つのことを信じるな。三つのことを信じよ。おまえさんの義理の父親（もしくは霧の母親）の愛を信じるな。一度の食事で安心するな。一年のあいだ食事ができるなら安心せよ。一年は一度にまさ

る。というのは、おまえさんに食べ物があつても、村全体になかつたら、おまえさんの食べ物はおまえさんの役にはたたない。村人に自分のところに食べ物がまつたくないことをみせてやつたほうが多い。でも、もし、おまえさんにはあるが、みんなのところにまつたくなかったら、みんなは、夜にやつてきて、おまえさんをころしてしまうだろう。村中どこにいっても、食べ物がなく、おまえさんだけがもつていたら、おまえさんはおちついて、食べ物をたべることができるか。一度の食事というのは、力がない。

さて、おまえさんの体の丈夫さを信じるな。世の中がおちついていることは、体が丈夫なことにまさる。争いがないなら、おまえさんが死んでも、人びとはおまえさんを埋葬してくれるだろう。病気になつても、よこになつておられる。もし、おまえさんのすんでいる地方に争いがおこつたら、おまえさんは死んでしまう。おまえさんは死んでも、人びとはおまえさんを埋葬してはくれないだろう。 (一九八三年一月一九日、語り手 ハンマドウ・ハマ・ガーブド、ガウンデレにて)

## 288 四つのカ・クラスのもの、四つのング・クラスのもの

四つのカ・クラスのものは役にたつ。四つのング・クラスのものは役にたたない。役にたつものは、四つ。役にたたないものは、四つ。カ・クラスのもので役にたつものは、皮でできた袋（ンガフアツカ）、畑（ンゲサ）、放牧（ンガイナーカ）、人につかえること（ファーダ）。四つの役にたたないもの。女であること（ンデワーク）、非フルベ族であること（カーダーク）、若さ（ンデルカーグ）、不信心（ケーフエラーグ）。女であることとは、女めしいこと。それは不幸なだけだ。

（フルフルデ語の名詞はすべて、二十五の名詞クラスと称される範疇に属する。どちらかといえば、カ・クラスのことばははだいたい具体的で、ング・クラスのことばは抽象的な概念のものがおおい。なお、原文では、アラビア語のケーフ、つまり、ローマ字の k をもつて、カ・クラスとング・クラスを代表させている）

（一九八三年一月一九日、語り手 ハンマドウ・ハマ・ガープド、ガウンデレにて）